

令和4年度第3回地域包括ケアシステム検討委員会（報告）

日時 令和5年2月14日（火）

10:00～12:00

場所 高梁市役所 3階

大会議室1・2・3

1 開 会（進行：池田）

2 あいさつ（山根委員長）

来年度に向けて、今年度の成果を確認して活かしていきたい。高齢化が進展する高梁市において、取りこぼしが無いように地域包括ケアシステムの構築を目指したい。

3 協議事項（議事進行：山根委員長）

（1）事業報告

元気なからだづくり隊（西川）

いきいき生活サポート事業（西川）

通所付添サポート事業（惣田）

通所型サービスB（惣田）

生活支援体制整備事業（西川・村上（高梁市社会福祉協議会））

*資料2～12ページ及びパワーポイントにて説明

（質疑応答）

Q. いきいき生活サポート事業の利用者の条件はどうなっているか。介護認定を理由に利用ができなかった事例があった。

A. いきいき生活サポート事業の対象者は事業対象、要支援1・2の人が対象となる。元々利用していて要介護となった人も対象となるがあくまで高齢者の軽度生活援助として考えてほしい。

（2）個人・グループワーク

*資料13～20ページ及びパワーポイントにて説明（西川）

*発表（板書：笹部）

「(ボランティア不足解消及び社会参加を促す) チラシの内容、活用方法について」

< 1 グループ >

① チラシの内容

- ・ カラー印刷で温かい感じにする。
- ・ 若い人が減りという文言は自分はどうせ年寄りだからという思いを抱くかもしれないので削除する。
- ・ 文字だけではなくイラスト、吹き出しなどで目を引くものにする。
- ・ 次世代への引継ぎが必要であるという文言。
- ・ ボランティアに抵抗がある人もいるので「空いている時間を活用しませんか」等のフレーズに変える。

② チラシの活用方法

- ・ チラシを配って終わらないように町内会の福祉委員にアンケートをお願いし、町内で声かけしてもらう。

< 2 グループ >

① チラシの内容

- ・ 誰に対して、いつ、どういう風にするものか具体的内容を入れる。
- ・ ボランティアをするに当たっての実際の流れが分かるような内容。
- ・ 実例を交えて無理なくボランティアができることが分かる内容。
- ・ 今求めている内容を視覚的に伝わるようにする。

② チラシの活用方法

- ・ 介護保険証交付時以外でも様々な媒体でPRをする。

「次年度に検討する事項について」

< 1 グループ >

- ・ 高梁市に人がいないのではなく次世代へつなげられていない。世代間の偏りを解決するコーディネーターの養成について。
- ・ いきいき生活サポーターの利用促進について。

< 2 グループ >

- ・ 各地区の課題を優先順位をつけてピックアップする。
- ・ 具体的な課題について協議→取組→フィードバック→全体へ広げる流れ
- ・ 各地区のコーディネーターと地域の取組内容等。

< まとめ > (山根委員長)

- ・ チラシを視覚的、具体的な内容にすることで自分でできる範囲で無理なく活動できることを周知することが必要。

・次世代へつなぐための活動が必要なので本委員会での協議内容を事務局と情報共有しながら実行していきたい。

4 その他

高梁市医療・介護市民公開講座の開催について紹介
たかはし福祉・法律なんでも相談会の紹介

5 閉 会（村上職務代理）

安心して暮らせる地域づくりに関係機関の協力が不可欠だと思う。情報共有をしながら具体的な施策を進めていきたい。